

ふるさとへの思い～一五年後の「自分」～

富貴中学校 三年 梶部 創太

校庭にそびえる、校舎よりも高い「もみの木」は、僕の通う中学校のシンボルとなっています。

この春、三年生になった僕は、「特別な思い」でこの木を見上げるようになりしました。なぜなら、僕達が卒業すると、富貴中学校は、休校になってしまうからです。

この「もみの木」は、中学校の長い歴史を、ずっと見守り続けてきたのです。僕もまた、小学校から中学校までの八年間余り、この木に見守られながら、元気に学校生活を送ることができています。その学校が休校となる……。一言では言い表せない様々な思いが、今、交錯しています。

和歌山県では、僕達の学校と同じように、休校、または廃校となった学校が、一九九〇年以降だけでも、一六〇校以上あるそうです。そして、そのほとんどが、過疎化や、地域の高齢化、合理化のための合併などといった理由によるものです。

他府県でも、同じような状況になっている地域があります。子育て世代の減少により、生徒数が維持できなくなったり、運営にかかるコストの合理化、市区町村の合併等といった面から、他の大きな学校に統合されたりして、休校や廃校になったりするのです。

学校や生徒は、地域のシンボルや、活動の拠点等となっていることが多いので、学校が無くなると、地域の元気、活力がなくなってしまうます。さらに進行すると、地域が無くなってしまいう事も考えられます。

僕もまた、来年の春、高校進学のため、通学が困難になるので、この「富貴」を離れなければいけません。しかし、僕には、強い「決意」があります。

それは、学生の間は、知識を身に付けるためにしっかりと勉強し、社会人になった時、いつか、必ず、「富貴」に戻ってくるということです。なぜなら、僕は、「富貴」が大好きだからです。豊かな自然環境や、温かい地域の方々など、良いところがたくさんある「富貴」が、僕は大好きです。一般的に、様々な面で、便利な都会が住みやすいと考えられがちですが、僕は、不便さの中に、「心の豊かさ」が残る「富貴」を大切にしたいです。

僕の学校では、去年の夏に、「ふるさとふれあい学習」の一環で、地域の方に、聞き取り調査をし、地域の方が、今の「富貴」をどう思っているかを調べました。地域の方は、「富貴には良いところがたくさんあるから、そこをうまく発信できれば、富貴はさらに良くなる。」「富貴に住みたいと思ってもらう事が大事。」等と考えている方が多かったです。

だから、今の富貴に必要なものは、「地域の魅力や、良いところを発信する力」「来た人に、住みたいと思ってもらえるような魅力」の二つだと思います。

だから僕は、大人になったら、いつか「富貴」に戻って、地域のために役立つことをしたいと考えています。例えば、町役場の職員になって、地域活性化のためのイベントを企画したり、宿泊できる場所を作ったり、「富貴」のことをもっとPRしたりして、地域活性化につながることをしたいと考えています。そして、三年前に休校となった小学校が、再び、開校できれば良いと思います。

地域を守り、復活させるために、これからは、自分の将来についても、きちんと向き合い、考えていきたいです。

一五歳の「自分」と、「ふるさと」を離れて一五年後の「自分」。再びこの「もみの木」を眺める「自分」に、どんな成長があるのだろう。自分自身に誇りを持ち、人のために尽くせる「自分」でありたいと願う。

この大好きな「ふるさと」のために、力を尽くせる人として。